

1ねんせいのがくしゅう(4がつ)No.1

南台小1年4月10日

こくご

書き方の基本

「しょしゃ」の教科書2・3ページを見て、文字を書く時の姿勢、椅子の座り方を学びます。4・5ページを見て、鉛筆の持ち方のポイントをお子さんとみつけてみてください。鉛筆を持たない方の手で、紙を押さえることも大切です。6・7ページを見て、線をなぞる時には、教科書をまっすぐにしたままなぞり、いろいろな方向への運筆に慣れます。(教科書をまわして書くと、自分の得意な方向への運筆練習にとどまってしまう恐れがあります。)



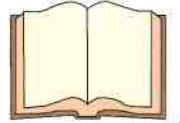
絵を見て話そう

「こくご」の教科書の文1～8ページまで、楽しい絵の世界が広がっています。絵の中から「ねずみ」「気球」「虹」「魚」等を見つけて、家族と一緒に話す学習です。絵を介してお話をお楽しみください。



お話楽しいな

(「こくご」の教科書、10・11ページ)いろいろな本を読んだり、読み聞かせをしてもらったりして、本に親しむ学習です。家にある本など、もう一度読み返してみると、新たな発見もあるかもしれません。ぜひ、一日1回、本に親しむ時間を作ってはいかがでしょうか。



線のなぞりかた

文字を書く際に土台となるのが、視線を正確に移動させる力と、文字の形を捉え、線の位置や方向を理解する力、目で得た文字に関する情報を、手を動かして形にする力です。線をなぞることを通して、その力が養われます。ゆっくりで構いませんので、しっかりと目を動かして線をなぞらせてください。2回目は、色鉛筆でなぞってみたり、家の人が描いた自由な線をお子さんがなぞってみたり、応用して線をなぞる活動を楽しんでください。

昔から子供に親しまれている「ぬりえ」も、始めに線をなぞり、枠線に注意しながら色を塗るので、文字学習の初期段階にとっても有効な学習です。



かるたで遊ぼう

文字を覚えるために、「かるた」で遊ぶことも、有効です。ご家族が家事等でお忙しい場合は、「あ」「め」など、文字を伝えてお子さんが探すだけでも文字に親しむことができます。



もじ文字粘土

(まずは、きれいに手を洗います!)粘土を細く長く伸ばし、紙の上などに文字を形作ります。好きな文字や自分の名前など、いろいろな文字を作ってみてください。終わった後もきれいに手を洗います。

